

## 活動報告（2014.2～2014.12）

### (1) 所員会議

第1回 2014年5月15日（木）

- 議題1. 2013年度事業報告及び決算報告について
- 2. 2014年度事業計画及び予算について
- 3. 総合郷土研究所構成員の加入・継続申請について

### (2) 運営委員会

第7回 2014年2月20日（木）

- 議題1. シンポジウム開催について
- 2. 所員の加入について

第1回 2014年4月24日（木）

- 議題1. 2013年度事業報告および決算報告について
- 2. 2014年度事業計画および予算について
- 3. 総合郷土研究所構成員の加入・継続申請について
- 4. 所員会議の日程について
- 5. 食文化研究会開催について
- 6. 運営委員の役割分担について

第2回 2014年5月29日（木）

- 議題1. 地域見学会の開催について
- 2. 公開講演会の開催について
- 3. 前期購入図書のアンケートについて
- 4. プロジェクト室の利用について

第3回 2014年6月26日（木）

- 議題1. 前期購入図書について
- 2. 継続購入雑誌の取扱いについて
- 3. 2014年度紀要第60輯の発行について
- 4. 郷土研ホームページについて

追加議題1. 研究員の新規加入について

第4回 2014年7月17日（木）

- 議題1. 環境研究総合推進費間接経費使用計画書について
- 2. 2015年度ブックレット刊行の在り方について
- 3. 2015年度ブックレット執筆者について
- 追加議題1. 環境研究総合推進費の謝金の支払基準について

第5回 2014年9月18日（木）

- 議題1. 2014年度紀要第60輯の執筆者について
- 2. 後期図書購入について
- 3. 2014年度古文書整理の臨時職員雇用申請について
- 4. 2014年度補正予算申請について
- 5. 2015年度新規予算申請について
- 6. 文学研究科客員研究員の古文書閲覧について

第6回 2014年10月16日（木）

- 議題1. 後期図書購入について
- 2. 2015年度新規予算申請について
- 3. 2015年度ブックレット刊行の在り方について
- 4. 旧郷土研（第二研究棟など含む）の書類・書籍等の管理について

第7回 2014年11月27日（木）

- 議題1. 2015年度経常・新規予算申請について
- 2. 2015年度ブックレット刊行の在り方について
- 3. プロジェクトルームの利用について

第8回 2014年12月18日（木）

- 議題1. 研究費の執行について
- 2. 非常勤所員および研究員の継続確

認について

3. 2014年度退職に伴う非常勤所員への案内について

(3) 公開シンポジウム

日時：2014年2月23日(日)13時～15時50分

場所：愛知大学車道校舎 コンベンション  
ホール

テ ー マ：「伝統的名古屋の食文化」

基調講演：「伝統的名古屋の食文化」

講 師：安田文吉（南山大学教授）

鼎 談：「近世名古屋の食文化―尾張徳川  
家のお節句料理と町人料理―」

安田文吉（南山大学教授）

三浦邦雄（株式会社八百彦本店  
代表取締役）

浅井信太郎（株式会社まるや八  
丁味噌代表取締役）

日時：2014年5月17日(土)13時～16時40分

場所：愛知大学車道校舎 コンベンション  
ホール

テ ー マ：「和食の魅力」

基調講演：「和食の魅力と世界無形文化遺産」

講 師：熊倉功夫（静岡文化芸術大学学  
長、「和食」文化の保護・継承国  
民会議会長）

基調報告：「長野県和食の魅力と文化財」

講 師：福島正樹（長野県立歴史館総合  
情報課長）

基調報告：「滋賀県和食の魅力と文化財」

講 師：長谷川嘉和（滋賀県文化財保護審  
議会会長、同志社大学嘱託講師）

(4) 公開講演会

日時：2014年7月20日(日)13時30分～15時  
30分

場所：愛知大学豊橋校舎6号館610教室

演題：「戦国時代の東三河 牧野氏と戸田氏」

講師：山田邦明（総合郷土研究所所員、文学  
部教授）

日時：2014年11月1日(土)14時～15時30分

場所：愛知大学豊橋校舎2号館メディア芸  
術スタジオ

演題：「心を伝えるデザイン書道―豊橋筆と  
共に生まれた作品たち―」

講師：鈴木愛（デザイン書道作家）

(5) 地域見学会

日 時：2014年10月26日（日）

見学先：鳳来寺山、長篠城、設楽原歴史資  
料館など

テーマ：長篠とその周辺

(6) 刊行物

愛知大学総合郷土研究所紀要 第59輯

戦国時代の東三河 牧野氏と戸田氏(ブック  
レット23)

## (7) 資料整理事業報告

2013年12月から2014年11月に目録作成をおこなった史料群について、内容を簡単に紹介する。

### 沢井耐三先生寄贈資料（史料群No.282）

2014年3月に愛知大学を退職され、現在は名誉教授の沢井耐三先生からご寄贈いただいた史資料137点。沢井先生が収集されたものの中から東三河関係の史資料を中心に、ご寄贈いただいたもので、①地方史料、②地域の歌人の歌集や地誌などの和本、③郷土資料や東三河で発行された雑誌などの出版物、④葉の効能書や寺院の御札の版本などに大別できる。①では吉田藩領である八名郡草加部村の宗門改帳（No.2-1～5）や嵩山村の百姓の日記（No.10、No.11）、吉田藩士の備忘録（No.6、No.7）など、②では嘉永元年（1848）に吉田藩が領民の教化のために出版した『公儀御法度』（No.3）や『六論衍義大意』（No.4）などがある。③では、吉田藩士柴田善伸が写した夏目麿の日記を善伸の曾孫伸吉が出版したもの（No.38）や、東三高等学校社会科研究会研究発表資料として編輯された幕末の新城領内の雨乞日記（No.39）など、興味深い資料を多く含む。

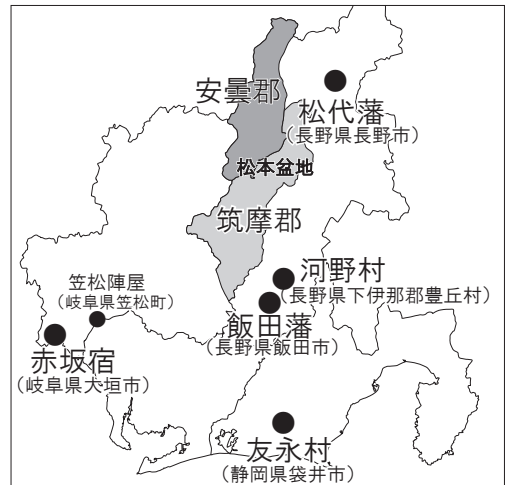
### 中山道赤坂宿慶応元年日光山参向人馬継立史料（史料群No.283）

慶応元年（1865）4月に日光東照宮で家康の250回忌がおこなわれた。この法要に参向する京都の公家・門跡・楽人等は中山道を通じて関東に向かい、3月20日から4月3日にかけて赤坂宿を通過した。本史料群はこの通行に伴う人馬の数および助郷人足の才領の名前を笠松陣屋に報告したものの控など9点。古書店から購入した。

### 信濃国<sup>つかま</sup>安曇郡筑摩郡開記（史料群No.278）

信濃国の安曇郡・筑摩郡の歴史を記した写本1点。古書店から購入した。

泉小太郎という子どもが龍の背に乗って岩を破り、信濃川方面に水を落として、湖だった安曇野・松本盆地一帯を肥沃な土地に変えたという伝説から、享保11年（1726）に志摩



関係地図

国鳥羽（現、三重県鳥羽市）から松本に入った松平光慈の時代までを記す。

### 松代藩御賞典録（史料群No.279）

明治2年（1869）に作成された松代藩士444名分の賞典録の書上の写1点。古書店から購入した。

賞典録とは、明治維新に功労のあった公卿、大名、士族に対して家禄の他に政府から賞与として与えられた禄のことである。表紙の裏に「上田丁 矢野氏文庫」とあり、柱に「矢」と印刷された罫紙を使用していることから、矢野という人物が写して所蔵していたものと思われる。

### 信濃国飯田藩堀家御物頭・御目付勤方覚（史料群No.280）

飯田藩堀家の御物頭・御目付の職務に関する心得を記した覚書。御預り御道具を保管する蔵の鍵の管理方法や城の見廻りについての取り決めなどが記されている。寛政8年（1796）12月に滝田彦左衛門・館野太左衛門という人物に宛てて出されたものの写。

### 遠江国豊田郡友永村文書

（史料群No.198-1、200、203）

友永村の西尾伝右衛門家旧蔵史料で、点数は3つの史料群を合わせて258点。2012年度から2013年度にかけて同じ古書店から別々に

購入したもので、作成者や宛所などから同じ出所をもつ史料群と考えられる。また、紀要第57輯で紹介した「遠江国豊田郡友永村伝馬御用留」(史料群No.192)は別の古書店から購入したものであるが、「友永村庄屋所」という表紙の記載から、これも出所を同じくする史料であると考えられる。

3つの史料群の中で最も年代が古いのは、寛文10年(1670)戊7月の「友永村西之御検地高」(史料群No.198-1-No.2-13)である。袋井地域のいくつかの村では、明暦・寛文期に加々爪直澄による検地がおこなわれているが、友永村も寛文9年(1669)に加々爪直澄の検地をうけている。加々爪検地の検地帳は現在のところ確認できないが、翌年作成されたこの検地高の書上帳は、加々爪検地の結果をうけて作成されたものであると考えられる。また、元禄2年(1689)にはこの検地による高の増減や等級に変更のあった耕地の書上が作成されている(史料群No.198-1-No.1)。宛所が書かれていないが、加々爪氏の後の領主に提出された申告書であると思われる。

西尾伝右衛門家は、遅くとも宝暦年間以降、友永村の庄屋をつとめている。また、幕末期には伝右衛門家の人で雄右衛門を名乗る人物が、向笠西村にあった旗本秋元氏の陣屋役人をつとめている。本史料群に含まれる近世文書は、主にこうした関係で西尾家に伝えられた村方文書や秋元氏の財政に関する文書である。断片的なものが多いが、「村中持高帳」と題された書上は、村の百姓の持高の変化を継続的に追うことができ興味深い。この書上は安永3年(1774)から嘉永元年(1848)まで数年ごとに作成されており、全部で12冊ある。安永5年(1776)の伝右衛門家は村内で最も多い116石余を所持しているが、文政11年(1828)には、これが159石余に増加している。(安永3年のものは一部が欠失しているため伝右衛門の名がない。)西尾家の明治期の土地集積については『袋井市史』(袋井市役所発行、昭和58年)に詳しいが、近世期にも活発な土地集積をおこなっていたことがわかる。

明治期のものでは、明治23年(1890)の第1回衆議院議員選挙で当選するなど、明治初期に政治家として活躍した西尾伝蔵に関する史料がある。主に戸長などの役職に関するものだが、明治9年(1876)8月に第1回遠州民会が開会した際の祝辞の写(史料群No.203-No.15-1)など、政治への関心がうかがわれる史料も含まれており興味深い。

なお、史料群No.198-1には信濃国伊那郡河野村の史料が混在していたので、史料群No.198-2として別に目録を作成した。

#### 信濃国伊那郡河野村<sup>かわの</sup>文書(史料群No.198-2)

史料群No.198-1に混在していた河野村の近世村方文書38点。大部分が宗門改関係で、特に弘化4年(1847)のものがまとまっている。宗門改帳は「堀越上」「堀越下」「南上」「南下」「北之上」「北之下」など、村内のまとまりごとに作成されており、他に神職の分と借家の分がある。村人の家族構成や年齢のほか、各家の持高も記されている。弘化4年の威鉄炮の改帳(No.9-28)の表紙には宗門改帳と同じ日付が記されており、宗門改と同じ日に鉄炮改もおこなわれたことがわかる。

他に、享保12年(1727)の郷中諸入用の書上帳(No.2)など、宗門改関係以外の史料も数点ある。なお、「久也」から「丸山保秀先生」に宛てた年不詳の書状(No.10)については、出所を特定することができないが、丸山保秀が幕末に南安曇地方の歌壇で活躍した人物であることから、この史料群に入れた。

(文責 臨時職員 内藤路子)